令和元年１０月８日（火）　日本海新聞掲載記事

青谷高校の特色ある授業

『地域環境芸術』の授業（１０月１日）の紹介

川六の「こま犬」見て学ぶ

木版画制作へ 青谷高生徒ら 神社を訪れ芸術授業

川六作のこま犬を写真に撮る生徒

青谷高（鳥取市青谷町）の地域環境芸術授業を受講する3年生31人は1日、旧気高郡地域を中心に多くのこま犬などを残している幕末の石工・川六（本名尾崎六郎兵衛）の魅力を知ろうと、川六作品のある神社に出向いて作品を見たり、研究家から話を聞いたりし、川六の高い芸術性について学んだ。

川六は旧青谷町出身で、こま犬や常夜灯、地蔵尊など約40点が現在確認されている。中でも鹿野町の鷲峰神社のこま犬は丸顔の愛らしい形が全国的にも珍しく注目を集めている。

この日は、川六ファンクラブの青木清輝さん(60)が青谷町青谷の潮津神社を案内。出雲式構え型の変形のこま犬は川六を代表する作品で躍動感あふれる様子を紹介した。

生徒たちは今後、こま犬を題材に木版画制作にかかるため、町内の写真家井上耕之介さん(55)から写真の撮り方を教わり、タブレット端末のカメラアプリに画像を収めた。

座学では青木さんは「川六は神社の雰囲気に合ったこま犬を作っている。数々の作品から丁寧な仕事ぶりがうかがえる」と話した。

相見秀仁さん(17)は「(こま犬を)改めて見ると迫力があり、ほかのこま犬とひと味違う。いろんな作品が今も残っているのもすごい」と話した。

（吉浦雅子）